

# 日本におけるムスリムフレンドリーツーリズム対応の現状

## 岐阜県飛騨高山を先進事例として

慶応義塾大学 総合政策学部2年 菊地健太

野中葉研究会ムスリム共生プロジェクトでは2023年11月27日及び28日の二日間に渡って岐阜県高山市においてフィールドワークを行った。当初はムスリムフレンドリーツーリズムプロジェクト（以下観光PJ）に関わる学部生9名と野中葉准教授の計10名で視察を行う予定だったが参加者の体調不良などが影響し最終的に学部生6人及び野中先生の計7名によるものとなった。本報告書にてそのフィールドワークによる成果を報告する。

### ● 活動目的

観光PJではコロナ禍以後、主に地方都市でのムスリムフレンドリー対応（以下ムスリム対応）推進を目指し活動を行っており、ムスリム対応の進んでいない地域への働きかけを最終目標としている。文献やデータを調査する中で高山市が先進地域として高い評価を受けており、今後の地方都市に対する施策を考える上でのモデルケースとして現在のムスリム対応に至った経緯や現状を視察したいと考えた。

### ● 活動成果

高山市では官民協同でのムスリム対応を行っており、高山市役所飛騨高山プロモーション戦略部観光課海外戦略係の葛井さん、及び民間でムスリム対応を進める中心人物で食品卸売業社清水弥生堂4代目の清水大地さんとZOOMを通して二度打ち合わせを行った。

結果、両名共に高山市役所で取材させていただける運びとなった。また特に精力的にムスリム対応を行っている飲食店の情報もお二方からご教授頂けたため、許可を取りそのうちの一つ、「飛騨そば小舟」さんにて店主の船坂さんからも話を伺うことができた。最終的に右のような行程でフィールドワークを行った。

27日	
11:00	高山駅前に集合
12:00~13:00	昼食（飛騨そば小舟さん）
13:00~14:00	高山市役所訪問
14:30~15:30	飛騨そば小舟さん訪問
17:00~18:00	夕食（やよいそばさん）
28日	
8:30~11:00	朝市見学
11:00~11:30	ホテル around 見学

高山市役所の訪問では先述したよう

に葛井さん、清水さんと対面し、主に清水さんから現在の飛騨高山で行われるムスリム対応の詳細やそこに至るまでの経緯について説明して頂けた。高山市のムスリム対応はもともと、清水さんが同業他社との差別化のために始めたものであり、国からの補助金などがない状態からのスタートだった。そのためムスリムが食べられるものであることを機関が保証する「ハラ-

ル認証」を取得するなど初期費用のかかる対応でなく、現実的なハラール対応を心がけているということだった。例えば、ムスリム観光客向けのパンフレットには特別なムスリム向けのメニューを用意している飲食店だけでなく、もともと提供しているものがムスリムにとって食べても問題がない（ハラームではない）飲食店も名前を連ねていたり、ムスリムにとって食べられない可能性があるものに関してはピクトグラム等によって情報提供をしたりなど様々な試みがなされているとのことだった。

小舟さんでは「高山グルメ」を提供する当事者としてムスリム対応についてお聞きすることができ、利益のためだけでなく、せっかく来ていただいたのだから美味しいものを食べて帰ってほしいという職人らしい動機について伺うことができた。一方、ムスリム対応を始めた当初、設置していた礼拝所に関しては混雑すぎて通常営業が難しくなるなどの理由で現在はやめてしまったそうで、現場ならではの現実的な側面も垣間見ることができた。

また、清水さんや葛井さんからムスリム向けのメニューを用意している飲食店として紹介していただいたラーメン屋やよいそばさんにて夕食を頂いた。鳥だしとアルコール無添加醤油をベースにしたムスリム向けラーメンを提供していただいたほか、店のガレージを使った礼拝スペースの見学も行った。

二日目は、ハラールのパンを提供しているというベーカリーを視察しに朝市へ、そして今年11月から始めたばかりだという礼拝スペースを見学しに駅前の「ホテル around」さんへと向かい、お話を伺った。

## ● 活用方法

今回の視察を通して観光事業者のムスリムフレンドリー対応は、最初からコストをかけずとも始められるということが分かったとともに、その具体的手法についても学ぶことができた。このことは必ずしも資金が潤沢にあるわけではない地方の観光地において、ムスリム対応を始める上での悩みをひとつ取り除く事となるだろう。今回の視察を元に飛騨高山をモデルケース化することができればムスリムフレンドリーな観光地になるまでの具体的なロードマップとして様々な地域でのムスリム対応推進、ひいては日本全体のムスリムフレンドリー化へつながる一助となるだろう。

また、今回の視察ではムスリム対応の現状を確認できたことも大きい。先述した小舟さんにおける礼拝所のケースのように解決しなければいけない問題も発見できた。今後さらに精査しこれらの問題を検討、解決していく必要があるだろう。

## ● 謝辞

このように地方でのムスリム対応を推進する本プロジェクトにおいて、今回のフィールドワークは非常に収穫の多いものになった。これはひとえに、快く取材を引き受けていただいた葛井さんや清水さん、小舟さんなどを始めとした高山市の皆様、並びに助成をくださった慶應 SFC 学会のお力添えあってのものだ。今一度、このような機会を下さり、深く御礼申し上げる。